



**4施設が一体となり
偏りのない診療を実現**

大阪陽子線クリニック

選べる

納得した治療法を選択できる

「なんともない」うちに受けてほしい

50歳を超えたら 定期的なPSA検査を

PSA 検査とは？

PSA検査は前立腺がんを早期に発見するための最も有用な検査です。

前立腺は膀胱の直下で尿道を取り囲むクルミ大の男性生殖器で、精子の運動を活発にするPSA蛋白を分泌しています。PSA蛋白は精液中に排出されますが、前立腺に異常が生じると、血液中に滲出して血液中のPSA値が高くなります。PSA値が基準値の4.0ng/ml以上となるとがんの疑いがあり、専門医による精密検査が勧められています。

最近ではより早期に前立腺がんを診断する目的で、年齢階層別基準値（50歳～64歳で3.0ng/mL以下、65歳～69歳で3.5ng/mL以下、70歳以上で4.0ng/mL以下）が推奨されており、大阪市前立腺がん検診でも採用されています。

PSA値は前立腺肥大症や前立腺炎でも上昇しますので、その値が基準値を超えていれば、泌尿器科専門医に受診されることをお勧めします。

PSA値のめやす

10.1ng/ml以上 がんが疑われます 数値が高くなるほどがんの可能性が高くなります

4.1～10ng/ml以上 グレーゾーン がん以外に前立腺肥大症など、前立腺に関する他の病気が含まれている可能性があります

4ng/ml以下 正常 定期的にPSA検査をして経過を見守ります

大阪市では

1,000 円 で前立腺がん検診が受けられます

対象：50歳・55歳・60歳・65歳・70歳の男性市民

前立腺がん9割以上は無症状

前立腺がんは尿道から離れたところにできやすいために特に症状が現われにくいという特徴があります。近年では前立腺がんが見つかる人の9割以上は無症状で、PSA値の上昇でがんと診断されますが、中には強い排尿症状や骨痛などのがんがかなり進行した状態になって初めて受診されるケースも少なくありません。

尿に関する症状がある場合は要注意！

前立腺がんでよく見られる自覚症状は、排尿時や蓄尿時に違和感を覚えるものが多く見られます。下記のような症状はありませんか？

前立腺がんは外側に発生することから、自覚症状が出ないことが多く、自覚症状が出た場合にはすでにがんがかなり進行していることもありますので油断は禁物です。

こんな症状はありませんか？

- ☐ 排尿後に残尿感
- ☐ 排尿後 2 時間以内に再びトイレ
- ☐ 排尿中に尿がとぎれる
- ☐ 我慢するのが難しい
- ☐ 尿の勢いが弱い
- ☐ 排尿のためにおなかに力をいれる
- ☐ 寝てから朝まで排尿で何度も目が覚める



調べる PSA検査のお問い合わせ・お申し込み

まずはお電話でご相談ください。

 **大阪前立腺センター 06-6464-1123**

PSA 検査は以下の 3 施設で受けることができます

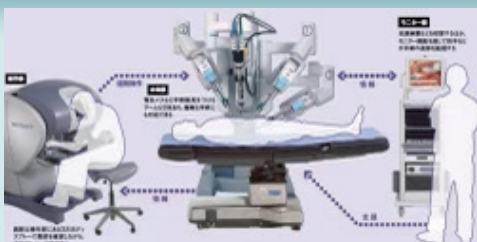
大阪暁明館病院 大阪府大阪市此花区西九条5-4-8

大阪中央病院 大阪府大阪市北区梅田3-3-30

はくほう会セントラル病院 兵庫県尼崎市東園田町4-23-1

選べる 新鋭のがん治療装置

内視鏡手術支援ロボット 「ダヴィンチ」



陽子線治療装置 「MELTHERA V」



医師紹介



奈良県立医科大学名誉教授・大阪堺明館病院名誉院長

平尾佳彦（ひらおよしひこ）

泌尿器腫瘍・尿路結石・排尿障害などの診療に幅広く携わっている。特に泌尿器科領域の内視鏡診療は長年、最新の低侵襲医療に積極的に取り組んできた。泌尿器科領域の医療の標準化を早期から手掛け、前立腺がん診療ガイドライン第2版では作成委員長として貢献した。日常臨床の課題解決には産学連携し、種々の機器を開発している。

大阪中央病院副院長

関井謙一郎（せきいけんいちろう）

内視鏡手術・結石治療、尿路変更術・移植を専門分野として「治療内容に納得していただけるように頑張っています」を治療に対するモットーにしている。日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会認定医、日本臨床腎移植学会認定医、ロボット手術認定医など数多くの資格を有し、日々患者の治療に当たっている。



大阪中央病院泌尿器科部長

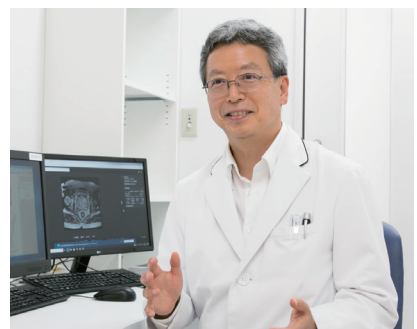
木内寛（きうちひろし）

腹腔鏡手術、ロボット手術、内視鏡手術など数多くの経験があり、国内外を問わず、様々な学術集会で活躍している。日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会の代議員を務め、日本排尿機能学会専門医の資格も有している。「日々の診療を大事にしながら最新の医療を提供できる医師」を目指して、診療にあたっている。

はくほう会セントラル病院副院長

川端岳（かわばたがく）

腹腔鏡手術、ロボット手術、内視鏡手術など数多くの経験があり、国内外を問わず、様々な学術集会で活躍している。日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会の代議員を務め、日本排尿機能学会専門医の資格も有している。「日々の診療を大事にしながら最新の医療を提供できる医師」を目指して、診療にあたっている。



大阪陽子線クリニック院長

山本道法（やまもとみちのり）

日本医学放射線学会放射線科専門医、日本放射線腫瘍学会会員、日本癌治療学会会員、日本肺癌学会会員として活躍している。強度変調放射線治療（IMRT）を用いた全身照射を2014年に日本に導入。現在は陽子線治療とIMRTとの差異についての研究を行っている。



伯鳳会グループ
HAKUHOKAI GROUP